

肺癌患者組織検体を用いた免疫染色法による PD-L1 および上皮間葉移行 (EMT) マーカーの発現と予後・治療効果に関する検討に関する研究

2001 年から 2016 年までに原発性肺癌のため手術または気管支鏡検査を受けた患者さん

研究協力のお願い

当科では「肺癌患者組織検体を用いた免疫染色法による PD-L1 および上皮間葉移行 (EMT) マーカーの発現と予後・治療効果に関する検討に関する研究」という研究を行います。この研究は、2001 年 1 月 1 日より 2016 年 6 月 30 日までに日本医科大学付属病院呼吸器外科または呼吸器内科にて、原発性肺癌のため手術または気管支鏡検査を受けられた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただく前に、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名： 肺癌患者組織検体を用いた免疫染色法による PD-L1 および上皮間葉移行 (EMT) マーカーの発現と予後・治療効果に関する検討に関する研究

研究期間： 2016 年 10 月 7 日 (倫理委員会承認日) ~2018 年 6 月 30 日

研究責任者： 日本医科大学付属病院 呼吸器内科 清家 正博

(2) 研究の意義、目的について

近年肺癌においては、PD-1 や PD-L1 という分子を標的とした免疫チェックポイント阻害剤(抗 PD-1 抗体/抗 PD-L1 抗体)の開発が進み、従来の細胞障害性抗癌剤との比較で全生存期間や無増悪生存期間を延長することが報告され、2015 年より実際にこの治療を受けられるようになりました。抗 PD-1 抗体は、PD-1 と PDL-1 との結合を阻害することで、癌細胞により不応答化された免疫力を回復・活性化させ抗腫瘍効果を示します。抗 PD-1 抗体の効果・予後予測マーカーとしては、PDL-1 発現との相関が示唆されていますが、まとまった報告は少ないのが現状です。原発性肺癌において、PDL-1 と PD-L1 と連動する上皮間葉移行(EMT と呼ぶ)関連因子の発現と予後・治療効果の相関の検討はまだ十分に行われているとは言いがたいため、この探索的研究による新しい知見が、今後の治療の進歩に貢献し得ると考えられ、大きな意義をもつと考えられます。この研究では、原発性肺癌における PDL-1 と EMT 関連因子のタンパク質の発現と予後・治療効果との関係を明らかにすることを目的とします。

(3) 研究の方法について

2001 年 1 月 1 日より 2016 年 6 月 30 日までに日本医科大学付属病院呼吸器外科または呼吸器内科にて、原発性肺癌のため手術または気管支鏡検査を受けられた患者さんの腫瘍組織のタンパク質 (PDL-1/E-cadherin/Vimentin/AXL/GAS6) の発現を免疫染色法にて解析し、予後や治療効果との関係について検証します。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (文部科学省・厚生労働省)」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 呼吸器内科 准教授 清家 正博

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131 (代表) 内線：6138

メールアドレス：mseike@nms.ac.jp